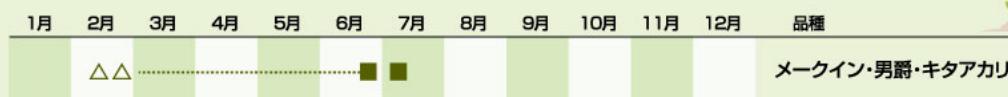




上手な野菜のジャガイモ育て方

1 栽培時期 (春植え) と品種 △ 種まき ■ 収穫



2 栽培上の注意点

- ◆水はけの良い所につくる(水はけの悪い所の作付は食味が悪い)。
- ◆粘質土は高畝にして、土の乾きを良くする。
- ◆ジャガイモはナス科の野菜のため、トマト・ナス・ピーマン・ししとうの後は作付を避ける(連作障害があるため)。
- ◆ウィルス病を避けるため種芋は市販のものを用いる。
- ◆霜がありそうな時は植付をしない(腐ってしまうため)。

4 種芋の準備

- ◆種芋の切断は日陰で行い、芽のたくさんある方を中心に縦割りにすると芽の出るのが良く揃う。
- ◆一片の大きさを30g程にし、切った種芋は切り口が濡れていると腐りやすいため、風通しの良い場所で2~3日置いて切り口がコルク状になるまで乾かす。
- ◆植付直前に切り分け、作業をする場合は、切り口に「草木灰」「ソフトシリカ」などをまぶして植付すると植付後の腐敗を防ぐ効果がある。

6 芽かき

- ◆芽かきは大切な作業で、芽かきをしないと、芋の数が多くなり、小さい芋になってしまう。
- ◆本葉3~4枚、芽が10cm程伸びた頃に、太い芽を1~2本残す。

8 病虫害の防除

◆ジャガイモで最も恐ろしい病気が疫病である。葉がこの病気にかかり、土の湿度が高い時に掘り取ると、芋が全部腐ってしまう場合もある。

- 疫病対策**
- 発病の多い圃場はナス科の作物の連作を避ける。
 - 開花初期から7~10日ごとに薬剤を散布する。
 - 抵抗性の強い品種を選んで栽培する。
 - 降雨後の感染が多いので、降雨前後、特に降雨後はできるだけ早く薬剤で防除する。

予防薬	ダコニール 500~1000倍	収穫7日前まで/総使用回数5回以内 (病気にかかるまでに散布のこと)
治療薬	リドミルゴールドMZ 500~1000倍	収穫30日前まで/総使用回数1回 (病気にかかってしまったら使用する。今かかっている分は治らないが広がるのを止める)

◆害虫はアブラムシ・テントウムシダマシの発生が多い

薬剤	スミチオン乳剤 1000倍	収穫3日前まで/総使用回数6回以内
----	---------------	-------------------

3 畝づくり・本田肥料

- ◆茎葉が過密にならないよう、株間30cm、畝幅50cmくらい確保して畝を立てる(1条植えの場合)。
- ◆2条植えの場合は畝幅約70~90cmくらい確保する。
- ◆肥料は基肥を重点に、深さ15cm程度のくわ幅の溝を掘り、1坪(3.3㎡)あたり牛フン堆肥5kg、化成肥料(あさひ・野菜専用化成)約1握を種芋と種芋の株間に入れる。

5 定植

- ◆株間30cm深さ10cmの穴を掘り、切断面を下に向けて植付する(植付後の水やりは不要)
- ◆雨上がりで土が湿り過ぎている場合は、種芋が腐ってしまう場合があるため土が乾いてから植える。
- ◆霜が降りそうな時は黒マルチを利用する。
- ◆芽が出てきてマルチを押し上げようとした時に穴をあけて芽を外に出す。

7 土寄せ

- ◆芽が地上に出揃った頃と芽かき後、開花前の3回に、中耕除草を兼ねて土寄せをする。土寄せをしないと芋が地表に露出して、緑化する恐れがある。
- ◆開花前の土寄せは、5~6cmと厚くし、株元まで十分にす。